

## 知床情報玉手箱 (利用施設最新情報ボード) 構築事業

## 【背景と目的】

「外国人旅行者向け情報発信強化部会」では、関係者が協働して戦略的な情報発信について検討している。また、平成 28 年 4 月、知床自然センターが「フィールドを知り楽しむための国際ビジターセンター」というコンセプトでリニューアルオープンした。これまでの検討で示唆された「着地後の外国人旅行者を対象とする」「斜里と羅臼をつなぐ」「フィールド情報の充実」などの方向性を受けて、国立公園の利用情報を発信する情報ボード構築に取り組む。情報ボードは利用者への情報提供のみならず、案内業務を行う地域関係者の情報プラットフォームとして統一情報に基づいた的確な案内をサポートすることを目指す。

## 【事業内容】

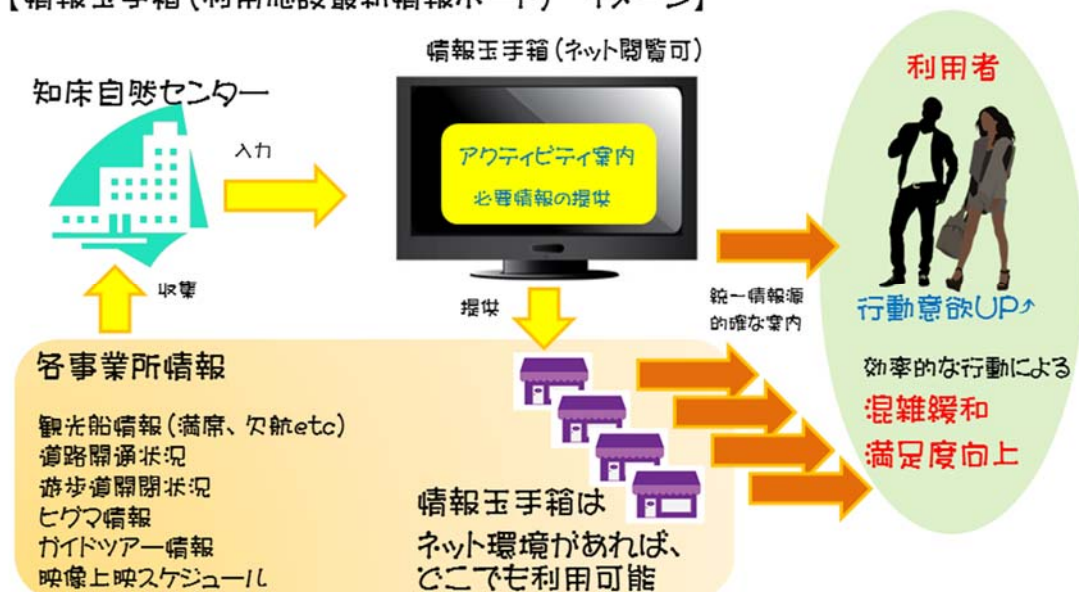
## ① 利用施設最新情報ボード

知床の利用拠点およびアクセスの利用可否を一覧できる情報ボードを構築し、だれでも最新情報を参照できるよう、インターネット上に公開する。

情報ボードには、ビジターセンターなど施設の閉開館、道路の開通状況、知床五湖などトレイルの開放状況、観光船の欠航情報など、現地到着後の利用者にとって利便性が高い情報を集約する。

- ・ 自然センター内で運用中の情報ボードを改良、インターネットで公開する。
- ・ 情報の更新は、主に知床財団が行う。
- ・ 外部の情報提供者が直接情報更新を行う運用を一部試行する。

## 【情報玉手箱 (利用施設最新情報ボード) イメージ】



## ② 日刊 ヒグマ情報

公園利用者に対して信頼性と速報性を兼ね備えたヒグマ情報の提供を行う。この情報は利用の促進や抑制を目的としたものではなく、事実と科学的知見をベースに利用者が自らの行動を意思決定する材料を提供することを目的とする。

- ・実施時期：4月中旬～11月
- ・実施時間：毎日9:30に知床自然センターレクチャーコーナーにおいて発表。
  - \*インターネット上への公開やSNSの活用、地域コミュニティや関連施設での共有については追って検討する。
- ・内容：場所別のヒグマの目撃情報の多寡や活動形態、餌資源の状況、あつれきの発生状況などについて、わかりやすくビジュアル化して発表する。また、利用形態に応じたリスク軽減のための行動上のアドバイスやヒグマ生息地で活動するための基礎的な行動原則を付け加える。

## ③ 週刊 登山道情報

登山シーズン中、定期的に登山道の最新情報を取りまとめ、ビジター施設および①の情報ボードにおいて発信する。斜里・羅臼両町にまたがる知床連山は、知床を代表するフィールドでありながら、最新状況などの的確な情報提供が不足している。一方、登山はリスクを伴う活動であり過去には遭難事故も多数発生している。この情報は②同様、利用の促進や抑制のためではなく、利用者が自らの行動を意思決定する材料を提供することを目的とする。

加えて、知床連山の登山道マップをデザイン・印刷する。着地後の旅行者はネットに接続する媒体を持たない場合もあり、さらに公園内のネット環境は脆弱である。フィールドにおいては、依然、紙のマップが最も利便性が高い。マップは、登山道の整備状況、高低差、道迷いリスクなど考慮した難易度をグレードとしてわかりやすく表示し、最新状況の発信とリンクして利用者の意思決定と安全をサポートする。

- ・ 登山道の難易度をわかりやすく伝える指標（グレード）を検討
- ・ 情報収集・発信の基本フォーマットの作成
- ・ 最新情報を収集する協力体制の構築
  - クマスプレーレンタル利用者からの情報聞き取り
  - 山岳ガイドの協力による情報更新
- ・ 登山道マップの作製
  - 現地の取材・写真等の素材収集
  - デザイン作成、印刷